

言語文化研究科

学位プログラム： 日本語・日本文化

授与する学位： 博士（日本語・日本文化）

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

日本語・日本文化に関する最先端かつ高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身に付けた人材の育成を目標としています。

単に日本語または日本文化研究にとどまるものではなく、世界の諸言語・諸文化との比較対照という視座を推進、発展させることによって、より大きな成果が得られるものと考えます。この視点にたち、日本語・日本文化を、他の言語文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力、異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化の中に生きる人をつなぐことのできる調整能力をもった人材を育成します。

○高度な教養

既存の学問領域に捕らわれず、高度な教養を身に付け、日本語と日本文化に関する高度な専門性と深い学識に加え学際的観点から複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

グローバル化や情報化が進展する今日、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目指して、日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座をもって研究する能力、日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力、異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力を養います。

○高度なデザイン力

言語と文化に関する高度な専門性と深い学識に加え、それを国内外にわかりやすく発信するデザイン力、加えて、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語と日本文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士後期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に博士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の学際的な関連諸分野について、幅広く高度な知識や問題意識を有している。
- ・自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開することができる。

○高度な教養

- ・学際的で幅広い教養に裏打ちされた高度な日本語並びに外国語の言語運用能力を有している。
- ・高度に複雑化した種々の問題に対し、その解決のために専門的知識を活用することができる。

○高度な国際性

- ・言語文化に関して、外国語文献を含む高度な文献を的確に読み解くことができる。
- ・自分の専門分野において、国内あるいは国際的な学術誌に掲載されるような論文を執筆することができる。
- ・自分の専門分野において、国内あるいは国際学会で、研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を身につけている。
- ・自国の文化に関する深い見識を基盤として、異文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、文化を超えて真に人間的な交流ができる。

○高度なデザイン力

- ・日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力を有する。
- ・異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力を有する。
- ・自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開ことができ、またそれを効果的に発信することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「日本語・日本文化」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行われます。

<教育課程の編成の考え方>

ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ専門的なカリキュラムを提供しています。専門教育科目として、日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の領域に関する専門科目をおき、当該分野に関する文献を厳密にまた批判的に読みこなす力をつけ、その前提にたつて、自らの独創的な論をたてる基盤を整えています。また、日本語および日本文化を他の言語・文化と比較対照させて、相対的に捉える視座を養うよう、対照言語学・比較文学・比較歴史学などの科目をおき、より立体的に言語・文化を位置づけ、深い考察ができる視座を提供します。授業科目の単位の授与は、学期末等に行う筆記試験、口頭試験又は研究報告等の判定結果に基づいて行います。

このようにして得られた高度な研究成果も、他者にわかりやすく発信する「デザイン力」がなければ意味がありません。そのため、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、外国語能力を含むプレゼンテーション能力、広く「発信する力」をつけるため、一方的受動的に知識を授けるタイプの授業ではなく、学生側から発信し、学生間で、あるいは学生と教員の間で議論が自由闊達におこなわれるよう授業を充実させることによって、デザイン力の育成をはかります。

最後に、学位プログラム「日本語・日本文化」が考える「国際性」とは、単に外国語の運用能力のことだけをいうものではありません。自国の言語文化の深い見識を基盤として、他の言語、他の文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、言語・文化の壁を超えて真に人間的な交流ができる力を身につけた人材のことです。

<学修内容及び学修方法>

授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各専門科目の教授内容に合わせ、講義、演習、実習と様々です。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、学生は各自の研究関心を深め、また広げるため、すべての履修分野の科目を自由に選択し、学ぶことができます。また、学生の研究課題や論文作成の指導についても、1名の学生に対し1名の主指導教員と2名の副指導教員、都合3名の指導教員が博士論文の指導に当たります。さらに、最終審査は5名からなる審査委員会で行います。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、各科目のシラバスなどに記載されている/定められている学習目標の達成度について、記載されている/定められている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

以上のように、学位プログラム「日本語・日本文化」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ多面的なカリキュラムを提供しています。

言語文化研究科 日本語・日本文化専攻

博士号取得（日本語・日本文化）

DP（博士後期課程）達成

国内外へ発信する高度なデザイン力

最先端かつ高度な専門性と深い学識

高度な国際性と教養

D3

博士論文提出

最終発表会

第2次中間発表会

予備審査面接

第1次中間発表会

D2

D1

研究計画書提出

特別研究 A・B
比較経済

特別研究 A・B
比較文学

特別研究 A・B
比較文化学

特別研究 A・B
比較思想

特別研究 A・B
対照言語学

特別研究 A・B
日本文学

特別研究 A・B
日本歴史学

特別研究 A・B
日本語学

特別研究 A・B
日本語教育学

自分の専門分野に応じて、必要な科目を選択して履修する

AP

○修了要件単位数：指導教員と相談の上、合計8単位以上修得